

## 日本フラワービジネス大賞2014の概要と受賞者決定

一般財団法人日本花普及センター、日本花き取引コード普及促進協議会及びジャパンフラワーセレクション実行協議会は、花き業界関係者の幅広い参加協力を得て、平成18年から、①花きの新品種の開発・導入及び活用・普及について多大な貢献や先駆的な役割を担った者、②花きの流通・販売面で新技術の開発・導入や新たな需要開発に多大な貢献や先駆的な役割を担った者、③我が国花き産業の新たな課題について意欲的に取り組んでいる者（民間企業、試験研究機関、各種団体あるいは個人等）を選考・表彰してしています。更に、平成25年度からは、東日本大震災後に花と緑による復興支援活動を実施しているボランティア団体等を対照、東日本大震災復興特別賞を設けております。

今年、日本花き取引コード管理委員会（2月、6月、10月）での事前検討に基づき、11月13日（木）には、日本フラワービジネス大賞選考委員会（磯村信夫委員長ほか）を開催して最終選考を行い、日本フラワービジネス大賞2014の受賞者を以下のとおり決定しました。

また、授賞式と受賞者による特別講演については、別紙のとおり、12月8日（月）に、ジャパンフラワーセクションの日本フラワー・オブ・ザ・イヤー2014の授賞式等と併せて実施します。

### （参考1） 日本フラワービジネス大賞選考委員会委員名簿（順不同）

（氏名）	（所属名・役職名等）
委員長 磯村信夫	一般社団法人日本花き卸売市場協会 会長 （株式会社大田花き 代表執行役社長）
副委員長 安藤敏夫	千葉大学 名誉教授
委員 土井元章	京都大学大学院 教授
委員 飯塚 勲	一般財団法人日本花普及センター 顧問 （元 株式会社サカタのタネ 常務取締役 国内営業本部長）
委員 長岡 求	株式会社フラワーオークションジャパン 取締役
委員 秋田洋子	一般社団法人日本生花通信配達協会 理事 （株式会社はなや 代表取締役）
委員 金澤美浩	全国新品種育成者の会 会長 （有限会社矢祭園芸 代表取締役）

### （参考2） 日本フラワービジネス大賞2014等の授賞式及び記念講演会の開催日程

日時： 平成26年12月8日（月）13：30～ 17：30  
会場： 南青山会館 新館2階 大会議室（東京都港区南青山5丁目7番10号）  
参加者： 花き業界関係者 約100名

### （問い合わせ先）

一般財団法人日本花普及センター 専務理事兼事務局長 西岸芳雄  
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル4階  
TEL： 03-3664-8739 FAX： 03-3664-8743  
E-mail： jfpc@jfpc.or.jp http：//www.jfpc.or.jp

日本フラワービジネス大賞2014の受賞者一覧

年次	部門	受賞候補者	受賞内容
2014 (9回)	育種・生産部門	富山県花卉球根農業協同組合 (代表理事組合長 清都和文)  昭和23年12月設立	大正7年(1918)富山県砺波にて水野豊造氏がチューリップ栽培を始めた。戦前には外貨獲得のためアメリカへの球根輸出に取り組み、戦後もいち早く生産を再開させ国内の花産業発展に尽力。  園芸分野も世界的なグローバル化の影響で価格競争時代に入、大量生産のオランダ球根との差別化を図るため、品質の高さ(100%開花保障)やオリジナル品種の拡大に取り組む。
	流通・販売部門	株式会社なにわ花いちば (代表取締役 大西 進) 平成6年1月設立 平成16年1月社名変更	日本で育種された高品質な切花の輸出について、平成20年から、卸売市場の機能を活かし、全国の産地との連携を図りつつ、アメリカのニューヨークから販売ルートの開拓に取り組んだ。更に、アメリカの西海岸や中南部及びカナダ等の主要都市にも拡大しており、日本産花きの輸出拡大の先駆的な役割を担う。
	チャレンジ部門	「みやざき花で彩る未来」推進協議会 (会長 松本拓真)  平成20年設立	県内花き消費拡大の活動の一環として、みやざき「花の日」(毎月7日・8日)を設定し、県内41店舗の生花店が参加。「親しみある店づくり、足を運びやすい店づくり」や「待ちの販売から積極的な販売」を支援するとともに、県産花きのPRを実施。また、親子を対象とした「来店型花育」を実施し、消費者が生花店に足を運ぶきっかけ作りを支援(平成25年度実績16店舗/333組)  更に、平成26年度の国産花きイノベーション推進事業(地区推進事業)としても拡充実施。
	東日本大震災復興特別賞	特定非営利活動法人 Green Fields (理事長 吉川三枝子)  平成23年6月に希望の花いわて3.11プロジェクトを設立 平成26年4月にNPO法人化	岩手県内の造園、園芸関係業者、日本ハンキングバスケット協会岩手県支部等のほか全国のサポーター会員で構成、平成23年6月に希望の花いわて3.11プロジェクトを組織し、者岩手県陸前高田市45線花壇、大槌町コミュニティーガーデン等で、花と緑を活かした多様な支援活動を実施。  更に、平成26年4月に特定非営利活動法人 Green Fields を設立し、今後さらに、より多くの市民、行政、企業が連携し、地域の緑化、花と緑の文化の創造、自然環境の保全等に貢献。

<これまでの受賞者一覧>

年次	部門	受賞者	受賞内容
2013 (8回)	育種・生産部門	株式会社サカタのタネ (代表取締役社長 坂田 宏) (神奈川県)	1970年代からトルコギキョウの育種をスタートさせ、1981年に世界初の一代交配(F <sub>1</sub> )品種「紫の峰」を発表。F <sub>1</sub> 化によって切り花としてトルコギキョウの栽培面積が急増する等、トルコギキョウの育種開発と国内外への普及に先駆的な役割

	流通・販売部門	株式会社ユニバーサル園芸社 (代表取締役社長 森坂拓実) (大阪府)	昭和43年にインドア・グリーンのレンタルや造園施工等を行う「ユニバース園芸」を創業後、ナーセリー部門、装飾部門、フラワーギフトまでの「緑のプロフェッショナル」としてモデル的な企業に発展(売上34億円 従業員数268名)
	チャレンジ部門	フラワートライアルジャパン実行委員会 (実行委員長 景山英治) (長野県・山梨県)	長野県・山梨県にまたがる蓼科・八ヶ岳エリアの地理的な条件を最大限に活かして、苗物・鉢物・園芸資材関係者が大集合して展示商談会を開催し、日本初の総合的なパクトライアルに発展(平成25年 花き業界関係者 約2700名が来場)
	東日本大震災復興特別賞	花と緑の力で3.11プロジェクトみやぎ委員会 (委員長 鎌田秀夫) (宮城県)	宮城県内の花き業界関係者が一体となって、被災地者の方々とともに、仮設住宅における花壇づくりや新たな復興住宅地周辺のイグネ(居久根:家のまわりを囲み、防風を兼ねた植栽)の再生等花と緑による多様な復興支援活動を展開
2012 (7回)	育種・生産部門	株式会社河野メリクロン (代表取締役社長 河野通郎) (徳島県)	昭和40年代から半世紀にわたりシンビジウムの品種改良に取り組み、あんみつ姫、愛子さま等の育成品種で需要を喚起する。現在、我が国で生産・流通している主要品種群を形成(5割以上のシェア)。 国際的にもフロリアード2012の品種コンテストで最高得点を得る等高く評価され、海外にも輸出。
	流通・販売部門	株式会社ハルディン (代表取締役 篠原 茂) (千葉県)	昭和50年代の鉢物生産から発展し、カラーリーフ等の苗物で「ハルディン篠原」ブランド化を確立。 現在は、花苗、野菜苗で600品目以上を生産・販売・デリバリー、そしてコンシューマーサポートまでの一貫した仕組みとサービスを提供し、高度な受注生産・販売体制を確立
		株式会社ユー花園 (代表取締役会長 山田祐也、 代表取締役社長 山田大平) (東京都)	昭和34年小さなお店(5坪)からスタートし、冠婚葬祭など様々な生活シーンに花をお届けするサービスに力を入れ、現在では、各種セレモニーの生花装飾や卸販売、等花の総合企業として発展。特に、生花でつくる花祭壇については、その作り方を公開して全国に流行らせ、新しい花き装飾ビジネスモデルの創出に大きく貢献
チャレンジ部門	フラワーバレンタイン推進委員会 (会長 井上英明) (東京都)	花き需要の閑散期のひとつである2月に新たな需要を創出するため、平成22年11月にフラワーバレンタインキャンペーンを推進する委員会が花き小売関係主体で設立。平成24年7月には、種苗、生産、流通、資材等の関係団体・企業も参加し、フラワーバレンタインに向けて、我が国花き業界が一丸となって、新たな花き販売促進活動に意欲的に取り組む体制を確立	
2011 (6回)	育種・生産部門	株式会社クロカワストック (代表取締役 黒川 幹) (千葉県)	1956年頃から黒川浩、黒川幹の親子2代にわたり、ストックの品種改良に努め、育成品種が国内流通量の8割以上を占めて、品質向上と需要開発に貢献
	流通・販売部門	岐阜花き流通センター農業協同組合 (代表理事組合長 加藤孝義)	全国各地の市場等への集出荷業務を効果的効率的に行うため、昭和61年に岐阜県内の鉢物生産者の有志によって発足し、全国初の広域集荷場を整備して花き流通の効率化を図るとともに、取り扱い数量を飛躍的に伸ばした。生販連携による商談会、

		(岐阜県)	出荷情報の提供、産地ブランド化等の先駆的に取り組み貢献
	チャレンジ部門	日本クリスマスローズ協会 (会長 畑中孝晴) (東京都)	全国のアマチュア趣味家とプロの生産者で1998年に組織され、2001年から「クリスマスローズの世界展」を毎年開催等を行い、その消費者への商品情報の提供・普及に先駆的な役割を担って貢献。品種改良や栽培技術の向上等にも取り組み、冬季の新しい園芸品目として定着
2010 (5回)	育種・生産部門	有限会社角田ナーセリー (愛知県)	ガーデンセンター、園芸店、量販店等へ、多品目・品種の花苗等を生産・販売し、花苗部門の先駆的な企業経営モデルとして貢献
	育種・生産部門	J Aとびあ浜松 浜松PCガーベラ (静岡県)	品質管理や消費者への普及等に先進的な目標を持って最も活発に活動している生産者グループであり、ガーベラの需要拡大に貢献
	チャレンジ部門	ちば花と緑の会 (千葉県)	千葉の花き生産者有志による団体で、展示商談会や農場公開を企画・運営することにより、商品のPR力・新商品の開発力・販売力を高めるとともに、生産者と流通・販売関係者が消費拡大に向けたパートナーシップを築き、生販連携活動の一つのモデルとして貢献
2009 (4回)	育種・生産部門	草野修一氏 (有限会社綾園芸 代表) (宮崎県)	日本を代表するランンキュラスの育種家で、最近の切花及び鉢物のランンキュラスの需要拡大に貢献
	流通・販売部門	株式会社ジョイフル本田 (茨城県)	近年、花材や園芸資材の小売販売面でシェアが増加しているホームセンターの中で、豊富な品揃え、専門スタッフによる商品企画と品質管理等で先駆的な役割を担って貢献
2008 (3回)	育種・生産部門	鷺澤幸治 (秋田国際ダリア園園長) (秋田県)	日本を代表するダリアの育種家で、最近の切花・ダリアの需要拡大に大きく貢献 国内の切花・ダリアの年間取扱数量の4割以上が鷺澤幸治氏の育成品種。
	流通・販売部門	群馬県あじさい研究会 (群馬県)	鉢物アジサイのオリジナル品種「フェアリーアイ」を活用したブランド商品(母の日ギフト)の開発・販売で先駆的な役割を担って貢献
2007 (2回)	育種・生産部門	タキイ種苗株式会社 (京都府)	ヒマワリのサンリッチシリーズの育種開発で、切花の新たな需要開発に貢献。国内の切り花・ヒマワリの8割以上を占めるとともに、世界でも(オランダ花き市場)9割以上を占める。
	流通・販売部門	株式会社パーク・コーポレーション(代表取締役 井上英明)(東京都)	青山フラワーマーケットの店舗展開 駅前の利便性のよい店舗を展開し、ミニブーケ等の手軽に楽しめる商品開発を行い、若い消費者層の新たな需要開発に貢献
2006 (1回)	育種・生産部門	八幡平市花き開発センター (岩手県)	リンドウの育種、産地形成及び切花の輸出等で先駆的な役割を担って貢献